



血液内科は、診断から治療までを自分たちで完結することができる、数少ない科のひとつです。エビデンスを機械的に当てはめるだけではなく、患者さんの希望や人生観に応じて「この患者さんに最も良い治療」を模索し、信頼関係を築きながらともに病気と向き合い、喜びや悲しみを分かち合う、これが血液内科医のスペシャリストとして最もやりがいを感じる点です。また、ジェネラリストとして、患者さんに起こりうる変化を事前に予測し対策を練り、さらに日々全身を総合的に診ながら微妙な舵取りをしていくことも、血液内科医の腕の見せ所です。

臨床と研究が非常に近いのも血液内科の魅力の一つです。筑波大学では臨床研究・基礎研究ともに積極的に行っていて、ベッドサイドで生じた疑問について研究したくなったらいつでも始めることが出来る環境が整っています。

筑波大学での診療はグループ制で行い、土日夜間はオンコール制を取っています。グループの全員が患者さんの情報を共有し、質の高い医療を保ちながらオンとオフの切り替えもしっかり出来る体制になっています。女性医師が活躍しているのも筑波大学の特徴です。

筑波大学血液内科グループでは、白血病、悪性リンパ腫などの重篤な血液疾患について、常に全国でもトップレベルの診療を提供しています。同時に血液分野の「明日の医療」を発展させるための最先端の研究を行い、治癒率向上を目指したいと考えています。**血液疾患の一流の臨床家になりたい、あるいは「明日の血液医療」を目指して研究分野で世界をリードしたい、そんなみなさんが仲間として加わってくださるのを待っています。**

**血液診療と研究の実際**

血液疾患の治療の中心は化学療法です。様々な抗癌剤を使い分けることで、がんを治すことができます。進行した白血病やリンパ腫のために、どんなに具合が

悪い患者でも、化学療法で元気に歩いて帰っていただくチャンスがありますので、とてもやりがいがあります。

また、多数の造血幹細胞移植を行っています。2012年12月に完成した新病棟では無菌室が30床と大幅に増床され、飛躍的に造血幹細胞移植症例が増加しています(2013年実績56例)。従来の移植法に加えて、ハプロ移植(注：一方の親由来のHLAしか合致していない血縁ドナーからの移植)、臍帯血の骨髄内移植(注：骨髄に移植片を直接注入する)など最先端の移植を臨床研究としてすすめています。

研究面では、世界に先駆けてリンパ腫の遺伝子診断技術を開発しました。また、大学病院内でGMPグレード(注：GMPはgood manufacturing practiceのことで、患者に投与するための品質保証がなされていること)の蛋白製剤を作製するなど、トランスレーショナル・リサーチに向けた準備も進めています。

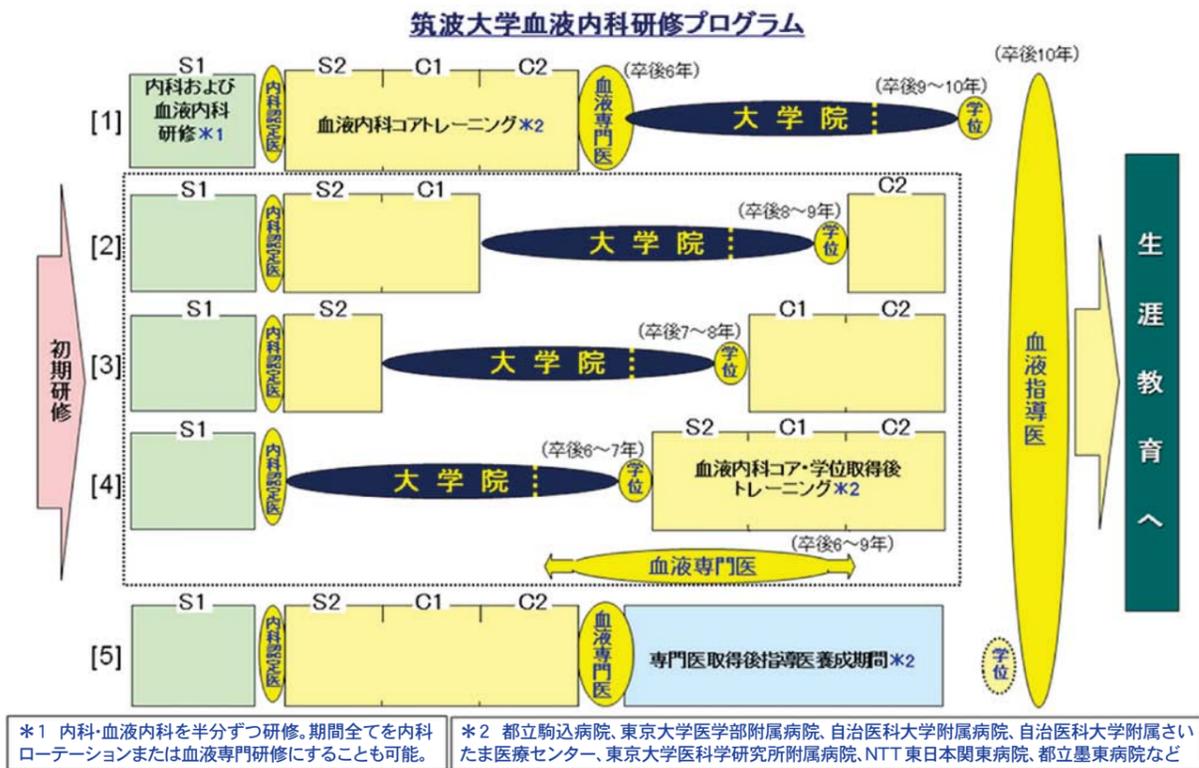
血液内科を選択していただいた皆さんには、エビデンスに基づいた**最新の医療をチーム医療のリーダーとなって実践**していただくとともに、**世界をリードする新しい医療の一員**になっていただきます。

**多彩なトレーニングプログラム**

2015年3月の卒業生以降は、内科の研修システムが大きく変わります。以下は、2014年3月以前の卒業生に適用されます。まず、卒後10年で、血液内科専門医、学位、指導医の資格を取得することを一つの目標にしています。

後期研修1年目(S1)は、内科ローテーションあるいは血液内科を希望に応じて研修していただきます。後期研修2年目以降の2年間(連続でなくともよい)を、血液内科専門コアトレーニング期間とします。原則として筑波大学附属病院で1~2年間、連携大学病院ないし研修病院で1~2年間トレーニングを行います。

当科の研修では、希望に応じどの段階からでも大学院進学を奨励しています。大学院での研究は、実験血液学的手法による研究、トランスレーショナル・リサーチ、



臨床研究のいずれを選択することが可能です。いずれの方向性を持つにしても、科学的思考能力の育成を目指しています。

**専門医取得先行プログラム**

卒後6年で専門医を取得することを目標とします。  
[1]では、血液内科専門コアトレーニング終了時(標準は卒後6年)に専門医を取得し、同時期に大学院に進学して原則として4年後(ただし筑波大学では早期大学院修了システムがあるため、条件を満たせば3年後でも可能)に大学院修了と学位取得を目指します。卒後9~10年での学位、10年での指導医取得が目標です。[5]は、大学院に進学しないコースです。一流の臨床家を志す皆さんにはこのコースが適しています。

**学位取得を先行させるプログラム**

チーフレジデント2年目(C2)までの修了や専門医取得を待たず、大学院に進学するコースです。大学院修了後にレジデントコースに復帰することももちろん可能です。[2][3][4]はそれぞれ

C1、S2、S1終了後に大学院に進学します。大学院修了と学位取得目標の時期は、それぞれ卒後8年、7~8年、6~7年です。大学院修了・学位取得後、血液内科コアトレーニングに復帰しますが、この場合学位取得後トレーニングとして、最低1年間臨床研究やトランスレーショナル・リサーチに参加します。医学研究者を志す皆さんにはこのコースが適しています。

